矢山哲治全集（全一巻）

矢山哲治全集

（全一巻）

監修　阿川弘之　島尾敏雄　那珂太郎　真鍋呉夫

未來社

矢山哲治全集

発行——一九八七年九月五日　第一版第一刷発行

定価——八五〇〇円

著者——矢山哲治

発行者——小箕俊介

発行所——株式会社　未来社
東京都文京区小石川三-七-二　振替(東京)7-87385

本文印刷——精興社

装本印刷——形成社

製本——今泉誠文社

★落丁・乱丁本はおとりかえします。

©恒屋喜三治

凡例

一、本全集は、矢山哲治の既発表、未発表を問わず、詩・訳詩・俳句・短歌・小説・小品・エッセイ・雑記・書簡について全業績を収録することを目途とした。

一、詩については、著者の生前刊行された三冊の詩集を刊行順に配列し、これらの詩集に収録されなかった詩については、「未刊詩篇」として「習作詩篇」「こをろ詩篇」「訳詩」に分類し、原則として年代順に配列した。

一、エッセイ・雑記については、年代順に配列したが、「こをろ」等の編集後記、「こをろ通信」に掲載された文章については、別途「編集後記」、「こをろ通信より」として一括した。その他のジャンルの作品についても、年代順に配列した。

一、本文は新漢字、歴史的仮名遣を使用し、拗促音の半字表記は採用しなかった。また、踊り字等も原則として採用しなかった。送り仮名不足の場合は、読みやすいよう適宜補った。

一、著者独特の用字、用語、造語、外国人名、方言等は原文のままとした。

1　著者独特の用字・用語

例　お注意　宿る　害める

2　著者独特の造語とみられる語彙

例　自誇　自卑　許与　硬張り

3　外国人名の表記

例　ジッド　イプセン

4　方言

例　借つた　黄ない　きない　黄い

一、誤植、脱字、誤記、仮名遣の誤りは正しい表記に改めた。

1　脱字

例　知せた→知らせた　死ぢまひやがつた→死んぢまひやがつた

2　誤記

例　慨念→概念　食時→食事　内抱→内包　苦脳→苦悩　温健→穏健

3　仮名遣の誤り

例　耐えて→耐へて　唱のよう→唱のやう　漂ふて→漂うて

一、人名、書名の誤り、外国語のスペリングの誤りについては、正しい表記・スペリングに改めた。

1　人名、書名の誤り

例　伊藤静雄→伊東静雄　二十世紀騎手→二十世紀旗手

2　外国語のスペリングの誤り

例　Mitfreaden→Mitfreuden

一、著者によって付されたものではないと判断されるルビは、すべてこれを除いた。

一、引用文は、原典と照合の上、訂正したところがある。

一、書簡については、別途凡例を設けた。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

矢山哲治全集

目次

詩

詩集『くんしやう』……三
祈禱……六
更春……八
茶ひと……一〇
道の中……一一
勲章……一三
菊花の章……一四
海……一五
川と葦のうた……一六
夜に……一七
朝……一八
あとがき……二〇

詩集『友達』……二
詩集『柩』……三三
優しい歌……三六
灰の歌
序……三七
顔……三八
夕の歌……三九
てまりこ……四〇
父・母……四一
雅歌……四三
柩
柩……四七
部屋
部屋……五四
お話の本抄
序……六六

春……六八
蝶のメエルヘン……六九
夜の歌……七〇
環水荘……七一
田舎……七四
七月の日のうた……七五
夜の想ひ……七六

無花果

無花果……七八
無花果……七九

未刊詩篇

習作詩篇

泉……八三
黄蝶……八三
転住……八四
疎林の円卓……八四
勲章……八五

樹樹……八五

こをろ詩篇

小さい嵐……八七
野薊花と詩人のうた……八七
船……八八
晴れた日のピアノ……八八
アネモネ……八九
一つのめざめ……九〇
詩人と死……九〇
夏野のうた……九一
誕生日に贈りて……九一
三月……九一
相聞歌……九一
祝ぎ歌……九二
新しい歌……九三
新しい歌……九四
(わたしは梅雨にぬれて歩きます…)……九四
生活正義……九五
鳥……九六

花火……九七
（薔薇のマントを纏つた少年達が…）……九七
春日……九八

訳詩

ストラハキツ「独逸物語詩」
ダグラスの心臓……九九
クリヨン……一〇三
フラウ・ヒルデ……一〇四
『幽霊船』……一〇五
ノオト……一〇七
＊
春（カロツサ）……一〇七
ヒヤシンス（シユトルム）……一〇八

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

俳句・短歌

俳句……二一
短歌……二三

小説・小品

少年はどう思ふでせう……二五
三隈川を下る……二六
盗難……二八
青春……三三
桃日……三七
十二月……四七

エッセイ・雑記

花がたみ……八一

母音の鈴……一八五
過失抒情……一八七
詩人の死　立原道造のこと……一八八
火枝について……一九〇
「肉体の秋」矢野朗氏出版記念……一九一
手紙（岸田國士・横光利一・太宰治について）……一九六
日曜学校（おとなのために）……二〇一
友達……二〇三
私信――こをろを読んで下さる方に……二〇四
むかしの歌……二〇七
火野先生　文学すること　生活すること……二〇八
栞草……二一七

編集後記

あとがき（「校友会誌」31号）……二二
創刊のことば（「こおろ」創刊号）……二二四
あとがき（「こをろ」8号）……二二五
あとがき（「こをろ」9号）……二二五
編輯後記（九大文学」10号）……二二六

「こをろ」通信より

同人雑誌『こおろ』創刊趣旨……二三七
こおろ創刊号私感……二三八
手紙に代へて（五日夜）……二三九
発禁問題についての一反省……二三〇
（「こをろ」4号同人批判抄）……二三二
解散提案者の動機その他について……二三三
私信にかへて……二三五
こをろ七号批評……二三五

書簡

昭和十二年（一九三七年）……二四一
昭和十三年（一九三八年）……二四二
昭和十四年（一九三九年）……二六七
昭和十五年（一九四〇年）……三〇一

昭和十六年（一九四一年）……三三八
昭和十七年（一九四二年）……三九四
昭和十八年（一九四三年）……四一六
書簡注……四二四
＊
光の薪――矢山哲治の詩と真実（解説）　真鍋呉夫……四三五
＊
解題　近藤洋太……四四五
＊
年譜・参考文献　近藤洋太……四五三

詩

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com